専門分野

【基礎看護学の考え方】

基礎看護学は、すべての看護領域の土台であり、看護学への導入である。また、看護の概念を学び、理論を活用しながら、看護における思考プロセスと看護行為の基盤となる。基礎的理論や科学的根拠に基づいた技術を学び、対象理解や臨床判断能力の向上を目的とした演習やシミュレーションを組み込み、基礎的实践能力を育成する。

当校では、生命を尊び、人間を尊重し、専門職業人として社会に貢献できる看護師の育成を目指し、豊かな人間性を育むことを教育理念としている。故に、看護の基礎を学ぶ基礎看護学では、看護の対象となる人間に深い関心を寄せ、その人らしく生きることを支えるための看護観を育み、各論へとつながる内容とする。

講義は看護学概論に始まり、看護基本技術、生活援助技術、臨床看護技術と段階的に組み立て、対象理解を基に、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学び、考える力、判断する力を培っていけるように科目を構成している。

「看護学概論」は、看護の主要概念から看護の役割を理解し、看護観を育成していく内容とした。更に「看護理論」「看護研究」を2年次に科目立てすることにより、自己の看護実践を理論と結び付けて考察し、効果的に看護を深められるよう配置した。3年次には「看護倫理」を学び、臨床現場での様々な葛藤から、看護者としての倫理的感受性を高められるように設定している。

看護基本技術は、看護の専門性を支える科目であり、Ⅰ～Ⅴに分けた。Ⅰではフィジカルアセスメントを学び、専門基礎分野で学ぶ人体の構造や病態を理解し、対象の状態・状況を把握するための観察・測定技術を身につけ、Ⅱでは看護師としての援助関係構築のための対人関係技能を育む。Ⅲ・Ⅳの「問題解決過程」では、1年次・2年次に配置し問題解決技能を活用し、看護を展開する能力を段階的に育成する。Ⅴの「安全確保の技術・感染予防技術」に関しては、すべての看護技術の根底をなすものであり、1年次早期から教授し、生活援助技術につながるよう配置した。生活援助技術はⅠ～Ⅲに分け、いずれも対象が生活者であることを踏まえた日常生活援助技術を学ぶ内容とした。

臨床看護技術は、健康障害をもつ対象の身体状態を把握し、状態に応じた看護技術を学ぶ内容とし、事例をアセスメントし看護へつなげるリアリティのある内容とした。臨床看護技術Ⅲは、疾患とともに生きる人々がその人らしく生きることを支えるための保健指導技術の習得を目指すため、疾患看護の習得状況を考慮し、2年次に配置した。

【目的】

看護の主要概念を理解した上で、基礎的な看護実践能力の基盤となる知識・技術・態度を習得する。

【目標】

1. 看護の主要概念をとらえ、看護の役割を理解する。
2. 看護理論を学び、看護観を確立する為の素地を身につける。
3. 看護実践全般に関わる基本的知識を習得する。
4. 科学的根拠に基づいた安全かつ安楽な看護技術を習得する。
5. 看護実践の基盤となる問題解決技能を身につける。
6. 自己の看護実践を理論と結び付けて考察する能力を身につける。
7. 対象の状態を判断し、看護を考え、実践する能力の基礎を身につける。
8. 看護者として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を身につける。

【構成及び計画】

講義

科目	単位数	時間数	学年別計画時期		
			1年	2年	3年
看護学概論	1	30	○		
看護倫理	1	15			○
看護理論	1	15		○	
看護研究	1	30		○	
看護基本技術Ⅰ フィジカルアセスメント	1	15	○		
看護基本技術Ⅱ 医療における基礎的コミュニケーション	1	15	○		
看護基本技術Ⅲ 問題解決過程 1	1	15	○		
看護基本技術Ⅳ 問題解決過程 2	1	15		○	
看護基本技術Ⅴ 安全確保の技術・感染予防技術	1	30	○		
生活援助技術Ⅰ 環境・衣・清潔	1	30	○		
生活援助技術Ⅱ 食事・排泄	1	30	○		
生活援助技術Ⅲ 活動・休息	1	30	○		
臨床看護技術Ⅰ 酸素療法・創傷処置・体温異常(罨法)	1	30	○		
臨床看護技術Ⅱ 検査・与薬・採血	1	30		○	
臨床看護技術Ⅲ 保健指導技術	1	15		○	
合計	15	345	9(225)	5(60)	1(15)

専門分野

科目名	看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護の概念を理解できる 2. 看護の概念と関連付けて看護の目的・目標・活動を理解できる 3. 看護学における倫理の考え方や法的責任を理解することができる 4. 看護学についての主要な考え方や、人々の健康にかかわる看護職の役割について理解・説明できる			
DP との関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護学の全体像 看護とは	講義		
2	看護学的視点について 看護の本質	講義 グループワーク		
3	看護の歴史 フローレンスナイチンゲールと看護	講義 グループワーク		
4	専門職の定義 専門職としての看護	講義		
5	各職能団体の看護の定義 1. 日本看護協会 2. アメリカ看護師協会 3. 国際看護師協会の看護の定義 保健師助産師看護師法 法に基づく看護師の業務	講義		
6	看護の役割と機能	講義		
7	看護理論からみる看護の定義 ヘンダーソン オレム ロイ ペプロー トラベルビー	講義 グループワーク		
8	看護理論からみる看護の定義 ヘンダーソン オレム ロイ ペプロー トラベルビー	講義 グループワーク		
9	こころとからだにかかるストレスの影響	講義		
10	看護の対象 人間を理解する ライフサイクルと発達 看護の対象 マズローの欲求階層説 生活者としての人間	講義 グループワーク		
11	健康の捉え方 健康とは何か 健康モデルと看護における健康の概念 WHO ICF	講義		
12	人間の尊厳と権利 看護者の倫理綱領	講義		
13	看護における倫理と法	講義		
14	看護の活動領域 国際看護 災害看護	講義		
15	まとめ 筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100点			
教科書	看護覚え書 現代社 重要なところだけ短時間で分かりやすく読む看護理論 日総研 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護倫理	開講時期	単位数	時間数
		3 年次後期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 患者のニーズに即した看護倫理について理解を深めることができる 2. 倫理的問題を捉えられる感受性を高める 3. 看護実践に潜在する倫理的問題の理解と看護者としての倫理的態度を身につける			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護倫理を学ぶ意義 看護倫理とは何か 看護職の責任 倫理的責任と法的責任 看護者の倫理綱領	講義		
2	看護倫理におけるケアリング	講義		
3	道徳的ジレンマと倫理的課題 倫理的課題への対応	講義		
4	倫理的意思決定モデル 臨床倫理の症例検討シート	講義		
5	看護職が出会う倫理的ジレンマ 事例検討 看護実践の倫理について考える 自分の考えをまとめる グループで討議	講義 グループワーク		
6	看護職が出会う倫理的ジレンマ 事例検討 看護実践の倫理について考える グループで討議	講義 グループワーク		
7	事例のまとめ 看護実践における倫理的基盤 倫理的看護実践を行うために必要なこと	講義 グループワーク		
8	まとめ			
評価方法	授業態度・グループワークへの参加状況 30% レポート 70%を総合して評価する			
教科書				
実務経験				

専門分野

科目名	看護理論	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護理論を学ぶ意義を理解することができる。 2. 看護理論における共通概念及び諸理論の基礎を理解する。 3. 自己の看護体験をもとに、看護理論を実践的に活用することについて理解する。			
DP との 関 連 性	2. 自己を客観的に見つめ内省することができる。 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる。 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている。 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている。 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる。			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護理論を学ぶ意義 理論の必要性	講義		
2	ヘンダーソンの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義・看護と人間・健康・環境を考える	講義 グループワーク		
3	看護の基本となるもの ヘンダーソンの考えを自らの言葉で解釈し述べる	講義 グループワーク		
4	看護の実際をヘンダーソンの看護論で読みとく 各自事例をまとめる	講義 グループワーク		
5	看護の実際をヘンダーソンの看護論で読みとく グループ討議 事例から考える	グループワーク		
6	看護の実際をヘンダーソンの看護論で読みとく グループ討議 事例から考える	グループワーク		
7	看護の実際をヘンダーソンの看護論で読みとく 事例・ヘンダーソン理論に基づき「看護とは」を述べる グループ発表	グループワーク		
8	看護の実際をヘンダーソンの看護論で読みとく 事例・ヘンダーソン理論に基づき「看護とは」を述べる グループ発表	講義 グループワーク		
評価方法	授業態度・グループワークへの参加状況 30% レポート 70%を総合して評価する			
教科書	重要なところだけ短時間で分かりやすく読む看護理論 日総研 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会			
実務経験				

専門分野

科目名	看護研究	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護学研究の目的を学習し、看護実践に研究成果を活用することの重要性を理解する 2. 研究の種類とその過程について概観する 3. 文献検討の意義と必要性について理解し、文献検索に必要な基礎的知識を学習する 4. 看護学研究における倫理的配慮について理解する 5. 学生自身の看護実践から研究計画書を作成し研究成果活用の重要性を理解する 1) 研究計画書の作成方法を理解し記述することができる 2) 自分の行った看護の意味づけとテーマを導き出すことができる			
DPとの関連性	2. 自己を客観的に見つめ内省することができる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護学研究の目的	講義		
2	看護実践力と研究的思考① 文献検索の重要性・文献検索の実際・引用方法	講義		
3	看護実践力と研究的思考② 文献検索の実際	講義		
4	研究論文の構成要素、論文作成の基本ルールとマナー 看護研究における倫理	講義		
5	看護研究方法論	講義		
6	研究テーマの見つけ方・研究計画書作成の進め方 1) 研究計画書作成要項説明 2) 文献検索の方法 3) 研究計画書作成にむけた実習での取り組み方	講義 演習		
7	研究計画書作成① テーマを見つける 1) 研究計画書の評価方法について 2) 実習の振り返り	講義 個人ワーク		
8	研究計画書作成② テーマを見つける	講義・GW		
9	研究計画書作成③	講義・個人ワーク		
10	研究計画書作成④ 発表準備 リハーサル	GW		
11	研究計画発表会・意見交換会	発表 GW		
12				
13				
14				
15	十勝支部看護研究発表会	聴講		
評価方法	研究計画書・文献リスト・ワークシート、発表態度を総合して評価する			
教科書	看護こころえ帳 医歯薬出版			
実務経験				

専門分野

科目名	看護基本技術 I フィジカルアセスメント	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 観察の意義と重要性を理解し、看護実践の基盤となる技術を習得できる			
DP との関連性	4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントについて	講義		
2	フィジカルアセスメントに必要な基本技術 (視診・触診・聴診・打診) 身体計測	講義 演習		
3	看護活動における記録・報告	講義		
4	バイタルサインについて バイタルサインの測定方法①(体温・脈拍)	講義 演習		
5	バイタルサインの測定方法②(血圧・呼吸)	講義 演習		
6	バイタルサインの測定の実際	演習		
7	実技試験(血圧測定)	実技試験		
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 80% 実技試験 20%を総合して評価する			
教科書	基礎看護技術 I 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術Ⅱ 医療における基礎的コミュニケーション	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護の対象となる人の尊厳に応える、看護実践能力の基盤である援助的人間関係形成のためのコミュニケーション能力を身につけることができる			
DP との関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	看護者と看護の対象にとってのコミュニケーションの意義		講義	
2	人間のコミュニケーションの特徴・構成要素 医療におけるコミュニケーションの特徴を理解する バーバルコミュニケーション・ノンバーバルコミュニケーション		講義	
3	傾聴・共感的理解とは 傾聴技法の理解と実践		講義・シミュレーション	
4	アサーティブネス・アサーション・アサーティブコミュニケーションの理解と実践		講義・シミュレーション	
5	プロセスレコードとは プロセスレコードの記載方法		講義	
6	コミュニケーション技術の実際・プロセスレコードの記載と考察		演習・グループワーク	
7	コミュニケーション技術の実際・データベースアセスメントの記載		演習	
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術Ⅲ 問題解決過程 1	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護の対処となる人の尊厳に応える、基礎的看護実践能力を養うために、科学的思考の基盤となる問題解決の方法の基礎を理解する 2. 看護過程の基礎を理解できる 3. 看護診断の基礎を理解できる 4. 当校書式に書く内容が理解できる			
DP との関連性	2. 自己を客観的に見つめ内省することができる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の必要性と問題解決思考について ・看護過程の 5 つの構成要素 1) 情報収集と S 情報・O 情報とは 	講義		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴードンの 11 機能パターンとは ・健康知覚・健康管理、認知・知覚パターン 	講義		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・看護上の問題点とアセスメントの意味と書き方 	講義		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・関連図の書き方 2) 看護診断とは 	講義		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位と問題リストの書き方と考え方 	講義		
6	<ul style="list-style-type: none"> 3) 看護計画立案 ・看護目標と書き方 4) 実施 5) 評価と SOPIE の書き方 	講義		
7	その他の受け持ち患者記録の書き方	講義		
8	筆記試験(45 分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	基礎看護技術 I 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院 ゼロからわかる看護記録の書き方 成美堂出版			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術Ⅳ 問題解決過程 2	開講時期	単位数	時間数
		2 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 看護における「行動」と「思考」を融合させる一方法として、看護過程を理解できる			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護過程の概要 関連図作成	講義 グループワーク		
2	看護診断・共同問題の抽出 優先度を踏まえた問題リスト 援助の方向性・望ましい健康像	講義 グループワーク		
3	看護計画の立案 目標設定 具体策	個人ワーク グループワーク		
4	個人ワークの内容を元にグループで看護計画を立案	グループワーク		
5	立案した看護計画の発表・意見交換	グループワーク		
6	経過記録(SOAPI)の書き方 具体策の実施・日々の評価	講義 個人ワーク		
7	目標の評価方法	講義 個人ワーク		
8	まとめ(45分)			
評価方法	看護過程・レポート評価			
教科書	基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	看護基本技術Ⅴ 安全確保の技術・感染予防技術	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師(感染対策認定看護師)			
科目目標	1. 看護における安全確保の意義を理解する 2. 人間特性からヒューマンエラーを身近な問題として理解し、リスクセンス向上の必要性を理解する 3. 看護業務において起こりやすいエラーと対策を理解する 4. 感染予防を学ぶ意義を理解できる 5. 感染予防策に関する基礎的知識を習得できる 6. 感染予防に必要な技術を基礎的知識をもとに実施できる			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護技術の基盤となるもの・安全の定義・医療安全を学ぶ意義 感染予防を学ぶ意義・手洗いの種類・目的・衛生的手洗い	講義		
2	医療安全の歴史当校の医療安全の取り組み 安全に関する用語の定義・インシデントレポート 衛生的手洗い演習・当校の実習における感染対策・今からできる感染対策	講義・演習		
3	看護業務の特性・人間の特性とヒューマンエラー・SBAR インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	講義・演習		
4	リスクセンス向上のための KYT・先輩の事例をもちいたトレーニング SHELL モデル	グループワーク		
5	安全と人権 身体拘束について・安全確保対策	講義		
6	感染症を成立させる要素と成立過程・感染症を予防するための基礎的知識	講義		
7	感染症の主な分類・法律・組織として取り組む感染対策 感染防止における看護師の役割	講義		
8	スタンダードプリコーション(手袋の着脱・ガウンテクニック・エプロン・ゴーグル・シールド)感染性廃棄物の取り扱い	講義・シミュレーション		
9	感染防護用具の選択と着脱の実際	講義・シミュレーション		
10	滅菌・消毒の違い・滅菌方法・消毒方法の理解・消毒薬の選択・希釈方法 無菌操作とは	講義		
11	根拠を踏まえた滅菌物の取り扱いの実際 使用した器具の感染防止の取り扱い	講義・演習		
12	清潔レベルを意識した滅菌野の作成・無菌操作のデモンストレーション	講義・演習		
13	無菌操作の練習	グループワーク		
14	無菌操作の練習			
15	無菌操作の実際	シミュレーション		
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	基礎看護学Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	生活援助技術Ⅰ 環境・衣・清潔	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 環境・衣・清潔の意義を理解し、看護実践の基礎となる援助の考え方と技術を習得する			
DP との関連性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	環境の意義と看護師の役割	講義		
2	病室と病床の環境調整	講義		
3	ベッドメイキングの方法	講義		
4	ベッドメイキングの実際	演習		
5	臥床患者の環境整備・シーツ交換の方法と実際	講義		
6	看護師二人で行う、臥床患者のシーツ交換	シミュレーション		
7	看護師二人で行う、臥床患者のシーツ交換	シミュレーション		
8	清潔の意義と援助の考え方・援助方法(入浴、部分浴)	講義		
9	部分浴:手浴・足浴の実際	演習		
10	整容、衣服の意義と条件・援助の方法、寝衣交換	講義		
11	清拭の方法と実際(清潔の意義と援助方法)	講義		
12	全身清拭の方法、寝衣交換の実際	シミュレーション		
13	全身清拭の方法、寝衣交換の実際	シミュレーション		
14	洗髪器もしくは洗髪車を用いての洗髪	講義・演習		
15	洗髪器もしくは洗髪車を用いての洗髪、部分浴(陰部洗浄)	演習		
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	基礎看護技術Ⅱ 医学書院 スタディガイドブック 照林社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	生活援助技術Ⅱ 食事・排泄	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食事の意義と現代の食生活の動向を理解する 2. 栄養・代謝のアセスメントとその目的及び食生活と栄養状態の関連性を理解する 3. 患者の状態に応じた食事援助や技術の実際を学び、食事介助ができる 4. 経管栄養法に必要な知識と援助のポイントを学ぶ 5. 排泄の意義と重要性を理解する 6. 排泄のアセスメントとその目的、排泄に影響を与える因子を理解する 7. 排泄行動障害に伴う基本的援助について理解する 8. 対象に応じた援助方法を根拠に基づいて選択し実施できる 9. 排泄障害の基本的な援助方法と根拠を理解する 			
DP との 関連性	<ol style="list-style-type: none"> 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる 			
回数	学習内容	授業方法		
1	栄養と食事に関する基礎知識とアセスメント	講義		
2	絶食状態にある患者の基本的な看護と援助	講義		
3	食べることを支える看護師の役割・食事介助	講義・演習		
4	非経口的栄養法（経管栄養、経静脈栄養）	講義		
5	非経口的栄養法（デモンストレーション）、口腔ケア	演習		
6	排泄の意義・目的	講義		
7	排泄のメカニズム・排泄に影響する要因・自然な排泄を促す援助	講義		
8	排泄援助（オムツ・ポータブルトイレ介助）	演習		
9	排泄援助（尿器・便器）	講義・演習		
10 11	床上排泄援助（便器介助）	シミュレーション演習 グループワーク		
12	自然排尿が困難な患者への援助 導尿・持続導尿中の看護	講義		
13	自然排尿が困難な患者への援助 導尿・持続導尿中の看護	演習		
14	自然排泄が困難な患者への援助 浣腸・摘便	講義		
15	自然排泄が困難な患者への援助 浣腸・摘便	演習		
評価方法	筆記試験 食事 50%、排泄 50%を総合して評価する			
教科書	基礎看護技術Ⅱ 医学書院 スタディガイドブック 照林社			
実務経験	本科目は看護師・助産師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	生活援助技術Ⅲ 活動・休息	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 人間の生理的欲求の一つである活動・休息について学ぶ 2. 活動休息についての重要性や援助を行うための基礎知識を学び安全かつ安楽で、患者のみならず看護者の身体への負担を最小限にしながら行う技術を習得することができる 3. 休息や睡眠にかかわる看護者の役割を学ぶ			
DP との 関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	活動と休息 人間と活動の意義	講義		
2	廃用症候群とは	講義		
3	ボディメカニクスの基本	講義		
4	運動機能の低下した人の援助 ポジショニングの基本・体位変換	講義		
5	患者の状態に合わせた体位変換・安楽な体位の保持	演習		
6	患者の状態に合わせた体位変換・安楽な体位の保持	演習		
7	運動機能の低下した人の援助 ① 車椅子での移動の援助 ② 座位保持・起立動作の援助	講義		
8	運動機能の低下した人の援助 ① 車椅子での移動の援助 ② 座位保持・起立動作の援助	講義		
9	ベッドから車椅子への移乗後、移送	演習		
10	ベッドから車椅子への移乗後、移送	演習		
11	看護師が一人で行う体位変換と車椅子への移乗	実技試験		
12	ストレッチャーでの移動の援助・歩行の援助	講義		
13	睡眠・休息の援助	講義		
14	活動のアセスメント ゴードンの活動・運動パターンに基づくアセスメント指針とその目的	講義		
15	休息のアセスメント ゴードンの活動・運動パターンに基づくアセスメント指針とその目的	講義		
評価方法	筆記試験 80% 実技試験 20%を総合して評価する			
教科書	基礎看護学技術Ⅱ 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	臨床看護技術Ⅰ 酸素療法・創傷処置・体温異常(罨法)	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員、非常勤講師			
科目目標	1. 呼吸の意義を理解し、酸素吸入療法、排痰ケア、吸入の目的と方法を理解する 2. 酸素療法を必要とする患者をアセスメントする力と、アセスメントに基づいた基本的な看護援助を習得する 3. 創傷・褥瘡処置を必要とする患者をアセスメントする力とアセスメントに基づいた基本的な看護援助を習得する 4. 発熱のある患者のアセスメントができ、アセスメントをもとにした基本的な看護援助を習得できる 5. 発熱のある患者の看護を理解できる 6. 罨法の目的と方法を理解し、湯たんぽ・氷枕を作成し、貼用できる			
DPとの関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容	授業方法		
1	呼吸の意義、呼吸管理 酸素吸入療法(援助の基礎知識)	講義		
2	酸素療法を必要とする患者の看護の実際	講義・演習		
3	排痰ケア、一時的吸引、吸入法、一時的吸引の基礎知識	講義		
4	吸入法・一時的吸引の実際	講義・演習		
5	発熱のメカニズムと発熱のある患者のアセスメントの視点、熱中症患者のケア	講義		
6	罨法の基礎知識	講義		
7	発熱時の看護の実際(罨法)	講義・演習		
8	事例を用いての発熱状態・酸素療法を必要とする患者のアセスメントと看護	講義 グループワーク		
9	発熱状態・酸素療法を必要とする患者の看護の実際(酸素療法・罨法)	シミュレーション		
10	発熱状態・酸素療法を必要とする患者の看護の実際(酸素療法・罨法)	シミュレーション		
11	創傷・褥瘡予防ケア・ドレーン類挿入部の処置に対する基礎知識	講義		
12	熱傷に対するケアの基礎知識、創傷の処置の方法	講義		
13	包帯法の基礎知識	講義 グループワーク		
14	創傷処置・包帯法の実際	シミュレーション		
15	試験	試験		
評価方法	筆記試験 80%・実技試験 20%の割合を総合して評価する			
教科書	基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護学生スタディガイド 照林社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	臨床看護技術Ⅱ 検査・与薬・採血	開講時期	単位数	時間数
		2年次前期	1	30
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 検査・与薬・採血を行うために必要な基礎的知識を理解し、安全および正確に援助できるための技術や検体の取り扱い方法を習得できる			
DPとの関連性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	薬物療法における看護の役割・看護の質の保証と安全管理(6R)			講義
2	薬物の種類と投与方法・援助の実際1 (経口与薬・口腔内与薬、吸入、点眼点鼻、経皮的与薬)			講義
3	経皮・外用薬投与の実際			講義・演習
4	薬物の種類と投与方法・援助の実際2(直腸内与薬)			講義・演習
5	注射の基礎知識と実施方法①(静脈内注射、点滴静脈内注射、混注の方法、中心静脈カテーテル留置の介助)			講義
6	点滴静脈内注射の実際			シミュレーション
7	点滴静脈内注射の実際			シミュレーション
8	注射の基礎知識と実施方法②(皮下・皮内・筋肉注射・針刺し事故の防止・事故後の対応)			講義
9	筋肉注射の実際・患者誤認防止策の実施			シミュレーション
10	筋肉注射の実際・患者誤認防止策の実施			シミュレーション
11	輸血管理と援助の実際			講義
12	血液・尿検査、検体の取り扱いについての基礎知識			講義
13	簡易血糖測定の実際			講義・演習
14	静脈内採血の実際・検体の取り扱い			シミュレーション
15	静脈内採血の実際・検体の取り扱い			シミュレーション
評価方法	筆記試験 80%・実技試験 20%の割合を総合して評価する			
教科書	基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護学生スタディガイド 照林社			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	臨床看護技術Ⅲ 保健指導技術	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の健康教育の動向を理解し、看護における保健指導(学習支援)の意義を理解する 2. 効果的保健指導(学習支援)に必要な理論と技能について理解する 3. 保健指導(学習支援)計画の立案を行い、個別性に合わせた実践のための基礎を学ぶ 			
DP との 関 連 性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる 			
回数	学習内容	授業方法		
1	看護における保健指導(学習支援)の意義 教育・指導の概念・看護師の権限・健康教育の変遷・ヘルスプロモーション 保健指導(学習支援)の対象と場	講義		
2	学習支援に必要な理論・モデル ロジャーズ学習理論・健康信念モデル・自己効力・エンパワメントモデル	講義		
3	学習支援において看護師の人間観・看護観・教育観がもたらす影響 効果的学習支援のためのコミュニケーション・カウンセリング・媒体の活用・効果について 保健指導(学習支援)計画の立案プロセスの理解	講義		
4	事例を用いた保健指導(学習支援)計画立案の実際	グループワーク		
5	保健指導計画に基づいた情報収集・プラン修正・シミュレーション	講義		
6	保健指導計画の展開・評価	シミュレーション		
7				
8	筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	成人看護学概論 医学書院 基礎看護学Ⅰ 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			